

ビエウロウ  
夫人の  
フレーベル追懷錄

S  
K  
生  
譯

十一 アルテンスタインに於ける子供の祭禮

フレーベルが最大なるものと最小なるものとの結合を固執し、之を教育に於て考察したいと望むに於ては、この理論は子供の遊戯に於てその適用を見出します、子供の遊戯はその普遍性に於て人間性を照寫し、又その無意識の状態に於て人間の教養の萌芽を示します。それ故、自己表現を爲さんと藻掻いて居る盲目の衝動に、目的に達する正しき道を指示するために成人者の悟性が幼き子供の暗中暗索を助けること及び最も適切な形式に於て後の意識生活に至る針路を示してやるために子供の言葉に現される符號的性質の正しき意味を取り出すといふことは非常に重要なことであります

發達せざる心は眞理の理解に達するためには感

覺的の認識と可見的の記號とを要します、野蠻人が偶像的物體フィギュルンを要するやうに、野蠻人よりは文化の進んだ古代の人々が彼等の理想を神々や又種々の比喩に具象化したやうに、それから又基督教の教會が象徴無しでは即ち十字架や聖麵包を抜きにしてはその意義を理解させることが出来ないやうに、子供時代の最深な要求は象徴若しくは感覺的形體によつて智力をその所有とすることであります。

それ故、まづ第一に象徴的表現がこのもの——子供が各自一人の役者として演ずる所の表現即ちそれに於て一團の子供がその基礎に横つて居る理想の代表者であつて、その理想の意義を彼等がそ

の行爲に現す所の遊戯——に必要であります。

フレーベルの運動遊戯キネマティックはこの目的を持つて居ります、何故ならばそれは或る意味に於て演劇であつて子供の理想を自然的及び人間的の行爲によつて客觀的にするからであります、子供の心靈はそれを取巻く生の現象の意義を無意識に探し求めて居ります、けれどもそれを本當に發見することが出来るためには指圖を必要とします、而してこの理解は單に言語のみに依つたのでは得られません、が言語に結び附いた行爲によつて、それから何はともあれ彼等自身の行爲によつてのみ得らるゝのであります。

希臘に於てオリズムピア等の競技の形式に於て屢々行はれた宗教的演技は當時の人々のこの要求を充たしました、それによつて人々は宗教的觀念を懐くやうになつたのであります、當時行はれた世界觀は主としてこの競技の形式に於て劇的行爲によつて會得されて居たのであります、希臘の黄金

時代に於ては他の民族に現されたことのない靈肉兩界の調和が現されて居ります、而してそれ故にこの調和は人類界に於て青年の理想的時期の正しき代表であります。美の形成はすべての感覺を鍛錬しすべての感覺を活潑ならしめてゐた當時の人の深い要求でありました、それ故それは何物にもまして感覺の世界に今尙生きて居る青年の要求を示します、生の智的若しくは高踏的な内容、善美の觀念は若しもそれらが理解せられて猶低き感覺的の快樂の卑俗を驅逐せんとするならば、象徴せられなければなりません。

若しも眞理が子供の心にとゞ抽象的の言語の形式に於てのみ供せられ、蔽はれたまゝで與へらるるならば信仰力若しくは眞理の意識は子供の心に於て絶滅さるゝに至るであります。歴史の諸相がこのことを教へます、それなのに人々は依然このことを繰返し、宗教や哲學を殊更教權として提示します。フレーベルはこれとは反對に宗教的行

爲と具體物の哲學的認識に依つて獨創的の確信と獨創的の洞察力とを覺醒し、それによつて宗教的の教權と哲學的の教訓とに對する準備を行はうと望むのであります、ルソーはこの方針と同じ意味のことを「あまりに早くより言語によつて與へらるゝあらゆる眞理は子供の心靈に惡徳の種子を植ゑる」といふ言葉で現して居ります。

幼稚園の象徴的の遊戯は少年をして希臘の象徴的の遊戯を繰返さしむるやうに鍛鍊するでありませう、けれどもそれらは決して希臘時代の見解ではなく現代の見解を照寫し、それによつて近き未來に對して用意をいたします、斯くて新しく作られた子供の祭禮から新しい意味を持つた一般人の祭禮が成長して來るであります。

幼稚園の遊戯に續く遊戯は或る形式に於て生の支配を教へ、智識的並びに物質的に教練を助けるといふやうな實際的の歸結を待つて居なければなりません、組織せられた運動場、學校園、教室、

諸種の藝術的敎習、田舎への遠足は文學的の學校と聯關してこれに對する方法を提供します、是等の機會の多くは既に存在して居るものであります、單一であつてはどれも役に立ちません、これらを一つの全體に結合するには組織的觀念が存在しなければなりません。

計畫せられた遊戯祭はミツテンドルフが居なくては完全なものとなりません、乃で彼はこれに仲間入をさせられました、彼は八月二十日の日暮方マリエンタルに到着しました、最後の部分を徒歩で來た彼は旅に疲れて、上氣して、埃塗れになつて居りましたが喜悅を滿面に堪えていそ／＼とラレーベルの家へ入つて行きました、私は彼と共にお祭のために何か用意をして居りました、フレールはその時既に彼の出來るかぎりのことはすべて仕遂げてしまひました、近隣諸地方の先生と打合せもすませてしまひました、アルテンスタインの城を取圍む廣場を遊戯場として選定してしまひ

した、競技の計畫も立て、しまひました、而して多くの唱歌や遊戯を彼の學校の研究生やリーベンスタイン幼稚園の子供達と共に練習してしまひました。

その晩ミツテンドルフと協議して、その翌日二人の友達がお祭に就ての細かいことを相談して速座に決定してしまふことになりました、彼等は諸方の村の先生達とその生徒の團隊に指定の時間に指定の場所へ来るやうに迎ひを出すことにしました。私は當時アルテンスタインの城においでになつた公爵家の方々をお祭へ——公爵家では既にお祭を舉行することを親切に御許可下さいました——お招きするために使者に立つことになりました、招待を心よくお受け下さいましたばかりでなく公爵夫人は子供達に牛乳と卷麩麩を御寄贈になることをお約しになりました。

八月四日と取極められたお祭の前日にはフレトベルもミツテンドルフも一分間も坐つて居る間な

ぞありませんでした、二人とも準備に夢中になつて居りました。クリスマスの前日の母親達の喜びに似た二人の心の喜びはその顔に明かに認められました。子供を幸福にすることはすべての人々の心を祝福します。

フレトベルは日和見のやうに凝然と瞳を凝らし、明日の天氣都合如何にと夜空を注視して居りました、すべての兆候は上天氣を豫想させました而してこの豫想は適中しました、暑すぎない煦々たる夏の太陽が青空に懸つて此國に於ける最初の子供の祭即ち愛に充ちた美しい祭の上を照らして居りました。

八月四日の午後二時に四人宛に並んで五つの異つた縦列を爲した三百有餘の子供が小さいサルツングの町、四周の村々リーベンスタイン、マリエンタル、シユワイナ及びシユワインバッハから繰込んで來ました、花環の飾りをつけた先生や保母が列の側に付き添ひ、歌をうたひながら大廣場即

も當日の遊戯場と定められたアルデンスタインの高地へと繰込んで來ました、入口には樅の葉の環の上に大きな花冠が据ゑられ、その花冠の中央にシルレルの、

「子供の遊戯中に屢々深き意義の横るあり」といふ句が記されてありました。

リボンの結節の色の相違によつて區別せられた各地からの子供の團隊と先生とはアルデンスタインの下なるシュワイナの村の夫々指定された場所に集合しました、サルツングの遠い方から出て來た組は此所から皆揃つて遊戯場へ上つて行くために緑の花綵を以て飾られた乗物に乗つて來ました而して一同はフレーベルとミツテンドルスとに迎へられました。

是等の諸地方から集つて來た縦列、大人や老人をも含む年齢の相違、子供の屬する階級及び教育程度の相違、(ラーベンスタインの子供は殊に著しく際立つてゐました)、すべて是等の多種多様なる

相違はフレーベルに取つて特別な意義を有するものでありました。

それは彼の「生の渾一」の思想を現すために必要でありました、遊戯とその喜びは種々に異つた生活、種々に異つた土地に住む人々及び種々に異つた職業や教育程度を等しく高めて、丁度一般的の崇拜がすべての個人を宗教的歸依に於て結合するやうに遊戯に於ける高尚な享樂を通じて結合しなければなりません。

間もなく子供達を廣場の中心を取巻いて八つの異つたサークルに區分するやうに命が下りました一つ一つのサークルはそのサークルの先生若しくはフレーベルの學校の保姆の一人によつて引率されました。

見物人は廣場の外なる四周の森蔭に整列させられました、附近の村々の人々がいろ／＼な百姓姿をして美しく入交つて居ました、彼等の多くは子供達の兩親、兄弟、姉妹、サルツングの町の住民

及びリーベンスタインの浴客でありました。多くの顔には、最も高い感情——父の愛——が刺戟された時最も粗野な人の顔にも見らるゝ所の愛が輝いて居りました、而してこの愛は孫を連れた白髪のお農夫の眼に於て殊に輝いたのであります、祖父母の愛といふものは田舎の人々に於て特に旺んであるやうに見えます、恐らく彼等の狭い生活と老年のために劇しい仕事から退いて居るといふことが彼等を導いて家族の子供の上に——老人は容易く子供を理解します——彼等のすべての感情を集中せしむるのでありませう。

三百人の子供の朗かな聲が

「こゝに結べる我等を見よや」

といふ開會の歌を響かせた時、それは異つたサークルが種々の展開をなす一種の進行遊戯によつて伴はれました。その時すべての人々の眼は喜びを以て輝きました、而して誰もその眼を遊戯者の上から轉じませんでした、遊戯者は單純な子供のや

うに紛れも無き喜びと快活とを以て、まこと熱心と専心とを以て、その遊戯の仲間入りをしてゐたのであります。

子供等に取つてはその遊戯は生命であり、活動であり、仕事であり、而して又同時に快樂であります、彼等はそれ故少くとも遊戯の恍惚が彼等の魂を飛ばし、その活潑な性質を度がすぎる位に刺戟するまでは非常な熱心を以て遊戯に携るのであります、この過度は成人の遊戯者の大集會には滅多に現れません、而して最も氣儘な子供の喜びさへも適宜の感情によつて暗示を受け或る限界の内にとそれ自身を抑止します。

この時にもさうでありました、すべての人々は遊戯の指揮者の聲に従ひました、指揮者は又フーベルとミツテンドルフとの合圖に従つたのであります。

開會の歌に次ぐ遊戯は皆歌の言葉によるよりは行爲そのものによつて子供達に了解されました、

優勢な思想が常に個人の行爲とすべての人々の屬する（渾一をなした）サークル全體の行爲との代り目でありました。間もなく團隊の一つが丁度或る一人の指圖によつて或る團隊に系統的の運動を爲さしめるやうに、内部の輪の中に於て何事かを爲すべく選まれます、これをすべて團隊が眞似るのであります。さもなければ或る團隊がその他の團隊の爲すべきことを決定し指示します。

例へば異つたサークルは夫々花環を作りました。それらの各は異つた花を現し、異つた徳の標象として歌を謳つて讚へました、閉會の時彼等はすべて獨逸民族の象徴として夫等を一體に結ぶところの獨逸の槲葉環を表す一つのサークルに結合しました。

鳩の家といふ競技に於ては鳩が遠方に飛び去つて又歸つて來ることが演ぜられました、而して飛び去つた鳩は歸つて來てから見たこと聞いたことを他の者に話さなければなりません。

## 唱 歌

我等は再び鳩の家を開き

すべての幸福なる鳥を放つ、

彼等は野を渡り草深き平地の上を舞ふ、

樂しき自由を悦びつゝ、

斯くて彼等樂しく大空舞ひて歸り來れば、

我等はその家を閉しやりわかれの言を告ぐ。

さても汝はこゝにかへりて安けられたのし、

愛らしの小鳩よ、汝の見來りし所を語れ。

鳩は物語り、而して言へらく「ポポ

我はたのし、母よ、みもとに歸り來ぬれば。」

この時子供達は手に持つて居る緑の小枝を以て

垣を作ります、小さい鳥になつて居る幼い子供達

は「森の小鳥」を歌ひながらこの垣の下をくゞり

ぬけます。

子供の思想を自然や動物の生活に導いて行く同

じやうな遊戯が幼稚園には甚だ數多くあります、

一般に言つて他の子供達よりは身體の大きいサ

ルツングの子供達は體操と一緒に幼稚園に適するやうに變へられた同地の有名な子供遊びを練習しました、一般に特に幼稚園の遊戯と言はるゝものは非常に面白く又子供によく適するやうに出來て居ります。

諸種の遊戯の基礎に横つて居る意義若しくは主眼は持て囃される話に於て面白をかしく現れ出てくるものでありますがこれは幼い子供には分りません、又は少くとも不適當であります。現今の教育状態は是等の遊戯が時代に適するやうに改作されることを望んで居ります、子供の心靈に於て確乎たる思想を覺醒すべき遊戯に對するフレーベルの考へ方は常に幸福に選まれるとは限りませんが、けれどもそれは大概瞬間的の子供らしい衝動から若しくはすべての競技の源泉である所の人々の機智から湧き出づるものゝまはりにはそれ自身を結晶せしめて子供の感覺に於て正しい心的傾向を見出します。

フレイベルは子供の天性の感覺的部分を解釋し表現することに於て假令それを現す所の詩句が缺點の多いものであつたにせよ、又よく省察してみても此所彼所非難に價するところがあつたにせよ、眞の天稟を以て成功して居るのであります。

それから一般に持て囃さるゝ樂なる唱歌の音樂は常に最善であつたとは限りません。フレイベルは手にあつたものを取り上げたのであります、何故ならば彼は音樂家でも詩人でもなかつたからであります、彼はたゞ彼の理智的思想を現すことを主眼としてゐたに過ぎません、是等の缺點はすべての仕事に避け難いその他の不完全と共に容易く改良されるものであります。

けれども人々はフレイベルの教育體系の深い根據をホンの淺くしか見ないために、批評がフレイベルの教育體系を主題として存在する時は是等の外面的の事物即ち貧弱なる詩や唱歌や詩化された考察等のみに就て語られ、子供のために計畫され



たこと、例へば「母と愛子の歌」の主張の如き母親に當て、言はれて居るものが混同されて了ぶのであります。

しかしながら斯る皮相の馬鹿らしい判断は自己の目的のために教育を行はんとする所謂主張者なる者に、その憐むべき不細工な仕事に於て（彼等はフレイベルを批判し非難しながらフレイベルの思想を彼等の仕事に於て彼等のもの、如く併り用ゐて居ります）公平の判断に似た外見を彼等に與へるためにそれらを利用する機會を、與へることによつて損害を爲すのであります。

是等の皮相の判断は子供の天性に入つて行くことは出来ません、彼等の文學的價値の標準は子供の天性に適應しないのであります、母の膝に抱かれて片語を言つて居る幼児や五歳位の小さい子供はゲーテやシルレルを理解しません、けれども庭の動物を見て自分達の言葉でフレイベルの小唄を歌ふことが許される時小さい子供は確かに理解する

ことが出来ます。

小さい鳩は空を舞ひ、小さい仔馬は飛びまはる、

小さい鵝がもはギヤーと鳴き、鶯うぐいすはガーと鳴きます、

小さい蜂はブンと鳴き、モーモー牛はモーと鳴く、

小さい犢は跳ね廻り、孔雀は氣取つて歩きます、

小さい羊はバーと鳴き、爺さん羊はオーと鳴く。

これらには全く美しい思想もなければ美しい詩句もありません、けれども幼い子供に分るやうな適當な言葉があります、私達は動物の種々な運動や鳴聲を幼い子供が喜ぶやうな又リズムの感覺を喚び覺ますやうな拍子に合せた言葉で現して、この年頃の子供の注意を斯る方面へ向けさせたいと思ひます。